

令和6年度第3回池田市行財政改革推進委員会 議事要旨

【と き】 令和6年10月17日（木） 午後3時～午後3時30分

【ところ】 池田市役所 3階 議会会議室

【出席者】

■委員：中川会長、村瀬副会長、福井委員、真崎委員、牛嶋委員、村上委員

■事務局：水越総合政策部長、塩川総務部長、村上市民活動部長、永原総務部次長兼人事課長、山本財政課長、森本総合政策部次長兼政策企画課長、藤本政策企画課副主幹、高橋政策企画課主任主事

【傍聴者】 0名

【内 容】

1) 開会

=事務局から配付資料の確認=

2) 議事

案件1：行財政ステップアップガイド重点計画の令和5年度取組に関する意見書（案）について

=事務局から配付資料について説明 =

=質疑応答（抄録） =

会 長：意見書案をまとめていただいたが、修正等はあるか。

副会長：（1）の下から3行目の「また、従前の計画に比べ」について、おそらく私の発言を基に記載されていると思うが、計画がと言うより、実績の報告書面が分かりやすくなったという趣旨であった。これも確かに計画が記載されているものであるが、従前の報告書面に比べてという趣旨で発言した。

会 長：修正はどうするか。

副会長：このままでも良いとは思いますが、何か良い表現はないだろうか。

事務局：「従前の報告書に比べ」と修正させていただくか。

会 長：計画を報告書に変えて問題ないか。

事務局：特に問題はないので、修正させていただく。

会 長：では、その部分について修正をお願いします。

(修正後の意見書を各委員に配布)

会 長：これをもって意見書として確定してよろしいか。

(異議なし)

事務局：それではこれより、当委員会を代表して私から水越総合政策部長に意見書をお渡しする。

= 中川会長から水越総合政策部長に意見書を手交 =

事務局：中川会長から「行財政ステップアップガイド重点計画の令和5年度取組に関する意見書」を頂戴した。この意見を踏まえて、さらなる改革に取り組んでまいりたい。

案件2：その他

会 長：本日の議題は以上となるが、せっかくの機会であるので、今後の池田市の行財政改革についてご希望、ご所見、アドバイス等ご発言いただければ、池田市の資産になるのではないかと考えるがいかがか。

委 員：まず、行財政ステップアップガイドの形式的な部分について修正をお願いしたい。全体的に再度見直していただきたいが、用語集について右下のページ数が消えてしまっているのと、上から4番目の包括連携協定について13ページと記載があるが、9ページが初出になる。また、その下のDXも15ページとあるが、初出が14ページであった。それから、未来創生戦略本部会議は未来創生戦略本部と記載があるため、会議が付くのか付かないのか確認をお願いしたい。会議が付かないのであれば、解説に会議体とあるので、表現を改める必要がある。また、財政調整基金も27ページとあるが28ページが正しい。今回の修正等でページ数が前後することもあるかもしれないので、再度確認をお願いします。行財政改革については、財政面がせっかく良くなってきたと言っていたら、今年からまた財政調整基金を取り崩すといった話が出てきて、厳しくなってきた中ではあるが、池田市は頑張っているという印象を持っているので、引き続き取り組みを続けてい

っていただきたい。

委員：建物の老朽化によって財政を圧迫していくことが、これからの課題であると思った。

委員：育児休業の取得状況が年度によってどのように変化しているかが、とても見やすくなった。これがますます上がって取得率が100%になると良いと思った。市役所の職員がまずモデルになって、池田市にある中小企業も含めて男性の方も育児を取りやすい環境が整備されると良いと思う。

副会長：前日も申し上げたが、28～29ページにある財政面について、量の改革から質の改革へということで、このような形にモデルチェンジされたことには賛成しているが、量の部分で経常収支比率が100は下回っているものの、数字的には良くはなっていない、かつ府下の市町村平均よりも良い状態の時もあったが、今は類似団体平均と比べてもしかりということで、この辺りが今後どうなっていくのが、気になるところであるので、よろしく願います。

会長：では、私からも一言申し上げる。この委員会の名前に行財政改革と付いているように、いつも申し上げていることであるが、財政のための行政改革というのは本末転倒であると考えている。本来やらねばならない仕事のために財政をどのように可変的に応用するかが正しいのであって、そのために足りなくなる経費というのはどこかに問題があり、死に物狂いでかき集めなければならないことになる。いわゆる、企業経営と違うところであって、行政経営というのはお金がないからしないということはいけないという部分がある。当然その分は、場合によっては国と交渉して勝ち取っていくとか、全国市長会なり、あるいは議会や議長会なりのパイプを使って要求し続けていくという態度も必要だと私は思っている。そういう努力は随分しておられると思うので、ここではあえて申し上げないこととする。ただ、行革といった場合に、世間一般では、コストダウンのことだと思いついでいる考え方が横行しているが、池田市はその次のステップに行っていきたいと考えている。たとえば、尼崎とは随分私もお付き合いがあったが、第一次行革が終わり、第二次行革としての元気ややる気の出る改革というか、パフォーマンスを上げる改革に入ったと言われている。そこから、次に北九州とか福岡あたりへ行くと、第三次行革と言っている。もうやる気出すのは当たり前のことで、今度は社会資本の生産性や次世代生産性にあまり結びつかないというものをスクラップして、そこに生産性の高いところに政策を転換して投資していく。その投資経費をひねり出すために、何を見つけていくかという努力が必要だということに

来ている。そのため、コストダウン改革はオールドクラシックモデルでもう終わり、民間企業にコストダウンの仕方を教えてもらうという時代はとうに終わっている。それよりも公共経営のむしろ専門性とか厳しさというのは逆に民間の人に理解してもらう必要がある。だから、何でも民間が優秀であるというような発想はやめてもらいたいというのが私の意見である。そういう意味では、パフォーマンスアップ改革については、もう池田市では大分やっておられると思っている。たとえば、職員の働き方改革も頑張っておられるので、引き続きご尽力いただきたい。次は、いよいよ第三次改革のコストエフェクト、つまり効き目のある仕事に政策を転換することになる。次世代生産性とか資本再生産性とか、技術生産性とか伝統の生産性等いろいろあるが、そういう社会資本の再生産性に近いものに優先的に資本をシフトしていくという改革を考えてほしいと思う。そういう意味で、私は新自由主義的改革に関しては、完璧に反対の立場である。もうそんな時代は終わっており、いわゆるミルトン・フリードマンの時代は終わっているということも前から言っている。もうそんな改革の時代ではなくむしろ、皆で一緒になって、本当に必要なところに投資を回すために、そのコンセンサスを作るための行政技術、政治技術を動員してほしいというのが私の願いである。だから、公務員の数が多すぎるとか働きが悪いとか、給料高すぎるとかいう、その悪い3点セットを下げるということは、もう一切してもらいたくないし、それに対しては、この委員会は違うという意見を言えると思う。また、池田市は頑張っていることを示す防波堤にもなりたいと思っているので、どうか頑張ってください。それでは、他にご意見等がなければ、事務局から事務連絡をお願いする。

3) 事務連絡

＝ 事務局から委員会の今後の予定などについて説明 ＝

本日は、貴重なご意見を賜り、感謝申し上げます。本日頂戴した意見書を掲載した「行財政ステップアップガイド重点計画に係る重点ターゲット令和5年度実績」は、11月に開催を予定している池田市行財政改革推進本部会議にて報告し、内容を確定させていただく。また、行財政ステップアップガイド重点計画令和6年度実施目標については、これまでに頂戴したご意見を踏まえて、引き続き取組を進めていく。そして、令和6年度の実績につきましては、令和7年度の4月頃の開催を想定している次回の委員会において速報として報告する予定としている。最後に、本日の議事要旨は後日、皆さまにご確認いただいた上で、配布資料とともに、池田市のホームページにて公表する。

4) 閉会

以上